

- 12.それでアッラーに従え。また使徒に従え。仮令あなたがたが背き去っても、わが使徒の務めは、只明確に（啓示を）宣べ伝えることである。
- 13.アッラー、かれの外に神はないのである。それで信者はアッラーに全幅の信頼を寄せなさい。
- 14.信仰する者よ、あなたがたの妻や子女の中にも、あなたがたに対する敵がいる。だからかれらに用心しなさい。だがもしあなたがたがかれらを赦し、大目に・、かばうならば（それもよい）。本当にアッラーは、度々御赦し下される御方、慈悲深い御方であられる。
- 15.あなたがたの富や子女は、一つの試・に過ぎない。アッラー、かれの御許に（だけ）偉大な報奨はある。
- 16.だから心を尽してアッラーを畏れ、聞きそして従い、また（施しのために）使え、あなたがた自身の爲めに善いであろう。また自分の貪欲に用心する者、かれらは繁栄を成就する者である。
- 17.あなたがたがもしアッラーに善い選付をするならば、かれはあなたがたのためにそれを倍加なされ、あなたがたを御赦し下されよう。本当にアッラーは感謝にあつく大度におわします。
- 18.また幽玄界も現象界をも知っておられ、偉力ならびなく英明であられる。

## SURA 65.離婚章〔アッ・タラク〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.預言者よ、あなたがたが妻と離婚する時は、定められた期限に離別しその期間を（正確に）計算しなさい。あなたがたの主アッラーを畏れなさい。かの女らに明白な不貞がない限り、（期限満了以前に）家から追い出してはならない。また（かの女らを）出て行かせてはならない。これらはアッラーの掟である。アッラーの掟に背く者は、確かに自分の魂を損う者である。あなたは知らないが、アッラーはこの後で、新しい事態を引き起こされるかも知れない。
- 2.その期限が満了した時は、立派に留めるか、または立派に別れなさい。そしてあなたがたの中から公正な2人の証人を立て、アッラーに向い証言させなさい。これは、アッラーと最後の日を信じる者に与えられた訓戒である。またアッラーを畏れる者には、かれは（解決の）出口を備えられる。
- 3.かれが考えつかないところから、恵・を与えられる。アッラーを信頼する者には、かれは万全であられる。本当にアッラーは、必ず御意を完遂なされる。アッラーは凡てのことに、一定の期限を定められる。
- 4.あなたがたの妻の中、月経の望・の無い者に就いてもし疑いを抱くならば、（命じられた）定め期間は3ヶ月である。（まだ）月経の無い者に就いても（同様である）。妊娠している者の場合、その期間はかの女が重荷をおろすまでである。本当にアッラーを畏れる者には、かれは事を容易になされる。

5.これはアッラーが、あなたがたに下された命令である。アッラーを畏れる者には、かれはその諸悪を払われ、かれに対する報奨を増大されるであろう。

6.かの女たちを、あなたがたの暮している所であなたがたの力に応じて住まわせなさい。かの女らを窮屈にして、困らせてはならない。もし妊娠しているならば、出産するまでの費用を、かの女たちに与えなさい。もしかの女たちがあなたがたのため（子）に授乳する場合は、その報酬を与え、あなたがたの間で、正しく相談しなさい。あなたがた（夫婦）がもし話がまとまらなければ、外の女が授乳してもよい。

7.裕福な者には、その裕福さに応じて支払わせなさい。また資力の乏しい者には、アッラーがかれに与えたものの中から支払わせなさい。アッラーは、誰にもかれが与えられた以上のものを課されない。アッラーは、困難の後に安易を授けられる。

8.どんなに多くの町が、主とかれの使徒たちの命令に背いたことであろう。それでわれは厳しく清算し、・せしめの懲罰でかれらを罰した。

9.こうしてかれらは、その行いの悪い結果を味わい、最後には結局滅亡した。

10.アッラーはかれらのために、厳しい懲罰を準備なされる。だから信仰し、思慮ある人びとよ、アッラーを畏れなさい。アッラーは、確にあなたがたに教訓を下され、

11.使徒を遣わした。かれがアッラーの印をあなたがたに読誦し、明白に解明するのは、信仰して善行をなす者を、暗黒の深・から光明の中に導き出すためである。凡そアッラーを信仰して善行に勤しむ者は、下に川が流れる楽園に入らされ、永遠にその中に住むのである。本当にアッラーは、かれらのために善い御恵・を下される。

12.アッラーこそは、7層のVと同様に（7層の）大地を、創造なされた方である。（アッラーの）御命令はそれらの間から下って来る。それで、本当にアッラーは、凡てのことに全能であり、またアッラーの御知識が、凡ての事物を確かに包囲なされることを、あなたに分からせるためである。

## SURA 66.禁止章〔アッ・タハリーム〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.預言者よ、アッラーがあなたのために合法とされていることを（アッラーの御好意を求めるためではなく）只あなたの妻たちの御機嫌をとる目的だけで何故自ら禁止するのか。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

2.（人びとよ）アッラーは、あなたがたのために誓いを解消するよう既に御達しがあった。アッラーはあなたがたの守護者であり、全知にして英明であられる。

3.預言者が妻の一人（ハフサ）にある秘密を打ち明けた時、かの女（ハフサ）はそれを（アイシャに）口外したので、アッラーはそのこと（秘密を漏したこと）をかれに知らせた。かれはその一部分を（ハフサに）話し、一部分は伏せて置いた。それでかれが、かの女（ハフサ）にそれ